

指導法など体験

石巻市の石巻養護学校 小学部で、毎朝恒例の「ほ かほかタイム」が始まった。軽快な音楽に合わせて、子どもたちが教師と一緒に体を動かしたり走ったりする。

九月下旬、笑顔が広がる輪の中に、四人の小学

宮城 変わる障害児教育

第1部 将来構想の波紋

表情で話した。 県障害児教育将来構想は、盲、ろう、養護学校がそれぞれの専門性を生かし、地域の障害児教育を支える「支援センター」機能の充実をうたっている。

橋渡し役果たす

校教諭が加わった。重度 石巻養護学校は一九九 障害児を担当する小中学 七年度、他校に先駆けて 校の教員を対象に、宮城 就学前の子ども向けに早 県が始めた実践研修充実 期教育相談事業を開始。 事業の受講者だ。 二〇〇四年度には特別支 本年度は百六十人が県 援教育部（現在は地域支 内の盲、ろう、養護学校 援部）を新設し、小中学 で研修を受ける。四人も 校からの相談も増えたと 九十一月に四、五日間、 いう。 「仙台圏以外には相談 授業の指導法や生活面の

②盲・ろう・養護学校

居住地域学習推進事業 二〇〇四年度に「共に学ぶ教育推進事業」として開始。盲、ろう、養護学校の児童生徒が居住地の小中学校を訪れ、授業、運動会などの学校行事に参加する。初年度は宮城県全体で引人が延べ一五〇回参加した。

支援方法を体験的に学ん 機関が少なく、以前から センター的な役割はあ

その一人、石巻市大町 った。経験を生かし、子 道小の村岡太教諭は「ほ どもと教師の橋渡しを している」と地域支援部 今年初めて特殊学級の 学校の分教室を設置し、 担任になり、戸惑いも多 の渡辺千恵部長は胸を張 った。将来を見据えた 指導や要め方、しかり方 相談を寄せた学校に足 などを参考にすることが 運び、軽度発達障害な どの子どもに対する支 生徒が地元の小中学校で

連携深め「共育」推進

援方法をアドバイスす 学ぶ「居住地域学習推進 するケースもあり、阿部慶 事業」二〇〇二年度に 吾校長は「地域の期待に 入った。 「養護学校を卒業した 耳を傾け、連携を深めた い」と積極的な姿勢を示 子」もは地域で暮らす。 将来構想の理念は、その 通りだと思っ。養護学

専門性も維持を

将来構想は養護学校が 校の医療ケア充実に取り 組む「経営栄養の子ども を持つ親の会」ひゅあす まいる。「仙台市」の佐 藤のり子代表はこう評価 する一方、「県財政が厳 しい中、地域の学校で命 を守るための十分な環境 が本当に確保できるの か」と現実と理想のギャ



石巻養護学校で研修を受ける村岡教諭(右端)。 地域の中で養護学校の役割は重みを増している

ップに疑問を投げ掛け る。 専門教育の大切さを指 摘する関係者も少なくな い。 「聴覚障害児・者の日 本語力を高めるなど、ろ う教育の役割は大きい」と県ろうあ協会の浅野順 一さん。県ろう学校の通 達良博教諭は「聞こえる 子どもの集団に、一人で 入る負担は大きい。いじ

教育

めや不登校に悩み、ろう 間」と位置付ける。障害 学校に戻る子どもいる」と のある子どもの学習環境 手話コミュニケーションの重 をとつ守るのが、構想が 要性を強調する。 描く障害児の未来に期待 将来構想は本年度から を抱きながら、不安を訴 十年間を「準備・試行期 える声は消えない。

感想募集 「教育の 住所、氏名、年齢、職 業、電話番号を明記し ページ」に対する意見 業、電話番号を明記し て下さい。ファクス は0222(211)1 18680仙台市青葉 区五橋一丁目二ノ二 0256。電子メールの アドレスは yusan 八、河北新報社報道 @po.kahoku.co .jp

NIEのページ

NIE(Newspaper In Education)とは教育に新聞を活用することです